

第25回

岐阜県

# 文楽・能大会

未来におくる宝物

— 郷土の芸能、心と技 —

## 上演外題

- 13:00 ~ 恵那文楽保存会 ジュニアクラブ (中津川市)  
(公演開始) 「寿式三番叟」
- 13:30 ~ 室原文楽保存会 (養老町)  
「傾城阿波の鳴門 巡礼歌乃段」
- 14:20 ~ 付知町翁舞保存会 (中津川市)  
「翁舞」
- 15:00 ~ 半原操り人形浄瑠璃保存会 (瑞浪市)  
「式三番叟」
- 15:40 ~ 恵那文楽保存会 (中津川市)  
「日吉丸稚桜三段目 五郎助住家の段」

※公演時間は目安であり、進行の都合で変わる場合もあります。

令和4年

入場  
無料

11月3日(木・祝)

開場: 12時30分

開演: 13時00分から

中津川市東美濃ふれあいセンター  
歌舞伎ホール



主催: 第25回岐阜県文楽・能大会なかつ川2022 実行委員会 中津川市、瑞浪市、養老町 / 後援: 岐阜県、岐阜県教育委員会  
お問い合わせ: 「第25回岐阜県文楽・能大会なかつ川2022」 実行委員会事務局 (中津川市文化スポーツ部文化振興課)  
TEL: 0573-66-1111 (内線 80-4319) FAX: 0573-65-5795 E-mail: bunka@city.nakatsugawa.lg.jp

表面の写真の内、一部写真は市川英昭氏の許諾を得て使用しています。

この事業は令和4年度岐阜県無形民族文化財伝承事業の補助を受けています。



むろ はら ぶん らく ほ ぞん かい

## 室原文楽保存会(養老町)

上演外題

けいせい あ わ

なると

じゅんれいうた の だん

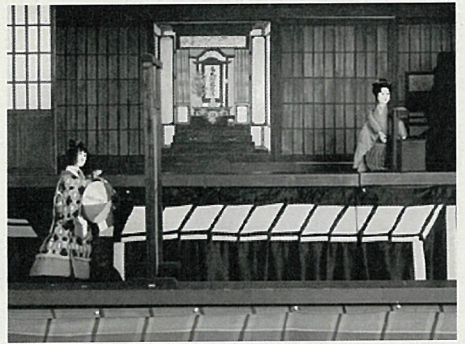
## 傾城阿波の鳴門 巡礼歌乃段

### 【外題の解説(あらすじ)】

阿波藩(徳島県)のお家騒動を題材にした物語。

阿波の徳島、玉木家の若殿が遊女に夢中になっているのを幸いに小野田郡兵衛という悪臣がお家横領を企てる。この騒動のさなか、家老桜井主膳が預かる玉木家の重宝国次の刀が何者かに盗まれる。

桜井主膳は元家臣である十郎兵衛に刀を探すように頼む。頼まれた十郎兵衛と妻のお弓は、娘のお鶴を祖母に預け、大阪に出て刀を探し始める。その方法は、盗賊の仲間に入ること、名前も「銀十郎」と変えて強盗などの悪行を繰り返していた。夫の盗みに対する役人の詮議が激しくなり、捜査の手が伸びてきたことに女房お弓が心を痛めつつ、ひとり十郎兵衛の家で留守番をしているとき、「巡礼に報酬を」と幼い女の子が門口に立った。国を尋ねると阿波の徳島であり、父母を探して巡礼しているという。まぎれもなく三歳の時、母の手元に残してきた我が子のお鶴であることにお弓は気づく。すぐにでも名乗りあって愛しい我が子を抱きしめたいと思うのだが、夫婦は役人に追われる身。この子にどんな難儀がかかるかも分らないと心を鬼にして追い返す。しかし、御詠歌の声が遠ざかっていくのを聞いていけると、耐えられなくなってお弓は我が子の後を追ってゆくのであった。



しかし、御詠歌の声が遠ざかっていくのを聞いて

つけ ち ちょうおきなまい ほ ぞん かい

## 付知町翁舞保存会(中津川市)

上演外題

おきなまい

さんば そう

## 翁舞(三番叟)

### 【外題の解説(あらすじ)】

能狂言には新年や特別な祝い事に、翁と三番叟を舞う伝統がありますが、これを文楽の人形で舞わせるのが付知の翁舞です。演じているのが人形であるのに、改めて面を着ける事で翁などが通常の人物ではなく、特別に変身した役を舞うものであることを今に伝えています。

また、翁舞と切って切れないものが三番叟で、室町時代中期頃から、翁は天照大神、千歳は戸隠明神、三番叟は春日明神をかたどるものといわれています。



初め、千歳が舞い、白尉の面をつけた翁は神聖なものと特に重んじられ、三番叟の春日明神は百性の神として、前半(揉みの段)では田畑を耕し作物の種を蒔く支度と害鳥の追い払い、後半(鈴の段)では黒尉の面をつけ、狂言問答の後、天下泰平処繁盛五穀豊穰悪疫退散を祈り、種を蒔く神聖な儀式曲です。

三体の人形がめでたく舞うことによって人の長命と天下泰平処繁盛五穀豊穰悪疫退散の祈祷をするのが趣向の中心です。

まず、演者一同は鏡の間に祭壇の神酒をいただいた後、神前にて舞うものです。

はん ばらあやつ にんぎょうじょうる り ほ ぞん かい

## 半原操り人形浄瑠璃保存会(瑞浪市)

上演外題

しき

さんば そう

## 式三番叟



### 【外題の解説(あらすじ)】

式三番叟は毎年四月(基準日・十四日)、産土神である半原日吉神社の祭礼で奉納をします。元は能の「翁」が祝い事や儀式などで舞ったものを、半原独自の三番叟として創作し、今日まで受け継がれてきました。半原操り人形浄瑠璃(通称・半原文楽)の「式三番叟」の特色は、「翁」「若男」「姫」の三体が一緒に三番叟を踊るところ、三味線の弾き語りなど、他では見られない独特のものであります。

え な ぶん らく ほ ぞん かい

## 恵那文楽保存会(中津川市)

上演外題

ひ よし まる わきの さくらさんだん め

ごろ すけ すみか だん

## 日吉丸稚桜三段目 五郎助住家の段

### 【外題の解説(あらすじ)】

木下藤吉の家臣堀尾茂助吉晴は、女房お政に、お前の父親五郎助は政争の相手ゆえと離縁を言い渡します。

茂助の覚悟の固いことを悟ったお政は、小刀を喉に突き立てます。五郎助はそんなお政に目をやらず、それとなく茂助に斉藤龍興の立てこもる稲田山の城廊をおとす策を教えます。

実は五郎助は住家への忠義と婿への義理と双方立てるため、自ら切腹していたのです。そこへ木下藤吉が現れて、五郎助を褒め称えました。五郎助は心も緩み、藤吉に古主の無道を見限った覚悟を見てくれと血潮の腹帯を見せるのでした。

五郎助はお政の首を打ち落とし、藤吉に斉藤明瞬の娘萬代姫として実験を求めます。五郎助は藤吉の「萬代姫の首受け取った」という言葉に始めてワァッと泣き出す。藤吉はお政の弟竹松を家臣に加え、名を加藤虎之助正清と改め、家名を残すと約束します。

花壇の陰より永井早太が味方に注進と飛び出せば、虎之助は藤吉への奉公初めと早太を打ちとります。五郎助は侍になった虎之助の様子を見ながら、やがて息たえるのでした。

